

原子力発電所の安全性に関する解説

第二集

原子力発電所の敷地として

東海村は適している

日本原子力産業会議

は し が き

わが国の原子力平和利用開発計画では、昭和五十年までに七〇〇万キロワットにのぼる原子力発電を行うことを予定している。

その第一段階として、日本原子力発電会社によるコールドホール改良型発電用原子炉の導入が計画され、東海村を候補地として、わが国最初の原子力発電所の設置が行われようとしている。

原子力発電所を設置する場合、その原子炉が安全なものであるかどうか、とくにその付近の人々が安全であるかどうかという問題は、あらゆる問題に優先して検討されなければならない。わが国最初の計画であるコールドホール改良型原子力発電所の安全性については、既に発電会社の提出資料を基にして専門の学者によって構成された政府の安全審査部会の手で検討が続けられており、近くその結論が示されることになっている。一方、この問題は現地の人々とはもとより、すべての国民にとって関心の深い事柄であるから、当事者や政府が検討するだけでなく、できるだけ多くの人々が正しい認識をもつために、真実が知られることが大切である。

最近コールドホール改良型発電所の設置に関連して、原子炉の安全対策、東海村の立地条件、さらに事故対策、災害補償等について、いろいろな問題が提起され、新聞、雑誌等でも種々論議されている状態にあるので、日本原子力産業会議では、その主な問題点について、各方面からの意見をとりまとめ、本問題に対する解説を試みることとした。この小冊子が大方の誤りない判断のために役立ち、日本の原子力開発が促進されることを期待す

昭和三十四年九月

昭和三十四年九月

日本原子力産業会議

第一問 原子力発電所の敷地としてとくに考慮すべき問題は何であるか。